

アクセス方法

自動車



大阪方面から:
171号線・西河原西交差点を**左折**、安威団地、郵便局を経て直進。

京都方面から:
171号線・西河原西交差点を**右折**、安威団地、郵便局を経て直進。

スクールバス

JR茨木駅と阪急茨木市駅からスクールバスを運行。
スクールバスは大学構内まで乗り入れています。

JR 茨木駅 スクールバスのりば



阪急茨木市駅 スクールバスのりば



スクールバス時刻表

登校便		下校便
阪急発	JR発 (マイカル茨木橋)	大学発
8:45	8:45	9:50
9:40	9:40	11:00
10:00	10:00	11:20
10:20	10:20	12:00
11:00	11:00	12:30
11:30	11:30	13:00
11:50	11:50	13:30
12:30	12:30	13:50
13:00	13:00	14:30
13:30	13:30	15:10
14:00	14:00	15:30
14:20	14:20	16:10
15:00	15:00	16:50
15:40	15:40	17:30
16:00	16:00	18:00

■欄が講座時間に対応しているバスとなります。

キャンパスマップ



2010年
4月15日(木)～5月20日(木)

全8回

会場 追手門学院大学 優駿ホール(6号館)

時間 13:20～14:50 (開場 13:00)

後援: 茨木市教育委員会 JICA大阪

4/
15
(木)

100人の村 あなたもここに生きています

ベストセラーとなった「世界がもし100人の村だったら」の再話を手がけた作家。その印税で「100人の村基金」を設立し、日本国内の難民申請者や、パレスチナに給水タンクを送るNGO・ネパールの小学校への支援等、"基金を必要としている世界中の人たち"へ支援活動を行っている。また、アフガン難民キャンプ内の女子校も支援している。専門はドイツ文学翻訳・口承文芸研究。世界平和アピール七人委員会メンバー。

ひとりひとりが大切にされない状況の最たるものが戦争です。
戦争は、戦場で始まるものではありません。人の心の中で始まります。
ひとりひとりを大切にしない心の中で、つまり人権を軽んじる心の中で、
戦争は始まるのです。



池田 香代子
作家・翻訳家

4/
19
(月)

嗜好品に見る異文化交流 ― 茶の世界・コーヒーの世界

1967年 大阪大学大学院文学研究科(フランス文学専攻)終了、1968年～1970年 フランス政府招聘留学生としてナンシイ大学文学部博士課程在学、1970年 追手門学院大学文学部専任講師就任、1996年～2000年 日本フランス語教育学会副会長、1997年～2003年 NHKラジオフランス語講座講師、2002年フランス政府よりバルム・アカデミック(教育功労賞)受賞、2004年 文学部長、フランス語教育を専門とするが、近年、異文化交流関係講義も担当。

茶とコーヒーは、ほぼ同じ頃ヨーロッパに渡り、各地で新たな文化の華を開いた。ある国は茶の国となり、ある国はコーヒー党が支配する。一方、日本は茶とコーヒーの共存共栄する珍しい国である。しかし、茶とコーヒーの栽培に目を移すなら、交流どころか異文化破壊とも言える現象に目を奪われる。茶とコーヒーという嗜好品の光と影を浮かび上げさせることが本講座の目的である。



中村 啓佑
追手門学院大学国際教養学部教授

4/
22
(木)

ODAの現場から～JICAの役割

1954年東京生まれ 早稲田大学第一文学部卒業後1979年国際協力事業団(旧JICA)入団 海外からの研修員受入事業、アジア第2部(南アジアと大洋州担当課長)、インド事務所長などを経て2007年11月からJICA大阪所長

グローバル化が進む中、地球温暖化をはじめ国境を越えた人類共通の様々な問題に国際社会と協力して取り組まなければなりません。また、世界各国は相互依存の関係にあります。資源や食糧など、開発途上国との共存共栄こそが、日本が生き残る前提条件といえます。政府開発援助(ODA)の実施機関としてJICAが果たしている役割をご紹介します。



酒井 利文
JICA大阪国際センター所長

4/
26
(月)

フィジーでボランティア・珠玉の2年間

昭和15年大阪府生まれ。1963年関西学院大学経済学部卒業後、3年間の企業勤務を経て中学校の教員に。大阪府教育委員会、美原町(現堺市)教育委員会、シドニー日本人学校校長、美原町の小中学校校長として勤務。2001年定年退職。2003年7月まで私学に勤務。2005年10月に帰国後は地域の仕事、趣味を楽しむ生活。

JICAのシニア海外ボランティアとして、2003年10月から2005年10月までの2年間、フィジーの首都スヴァにある障害を有する人たちのための作業所で活動。その内容や当地での異文化体験をお話します。



堀口 恵三
海外シニアボランティアOB

5/
10
(月)

これからの日本と中国

中国生まれ中国育ち。1979年中国对外贸易大学卒業。同大学の専任教員になる。1985～1988年に九州大学大学院で学ぶ。1993年再度来日。朝日大学客員研究員を経て、1994年から上京、日本大学非常勤講師を務める。1998年から追手門学院大学専任教員になり現在に至る。現在准教授。

少子化による人口の減少、世界的金融危機による景気減速、急速に進む円高、低迷が続く株価、長引くデフレ、悪化する雇用状況など、四苦八苦する日本経済。この苦境からどう抜け出すのか。新たな内需を生み出すのは、もはや容易ではない。これまで頼っていた欧米諸国も悪戦苦闘している。日本の助けにはならない。唯一期待できるのは急速に台頭している新興国であり、特に「世界の工場」から「世界の市場」へシフトしている中国経済。講座では、日中両国は今後如何に相手の長所取り入れ、自分の短所を補うかについて考える。



曹 満
追手門学院大学経済学部准教授

5/
13
(木)

熟年夫婦の海外での新たな暮らしについて

JTBに31年、JCBトラベルに4年、通算すると35年間旅行業界に勤務し、その間、海外旅行の企画責任者やお客様相談室長、コンプライアンス統括部長などを務める。海外渡航歴は約130回、国内の添乗経験は350回超に及ぶ。2009年4月より、大阪観光大学観光学部教授として勤務。専門分野:ニューツーリズム(21世紀型旅行ビジネス)、旅行企画論、観光業マーケティング論、アジア太平洋観光論等。

リタイア後の熟年夫婦に対して、より充実した、生きる力がみなぎってくるような新たなライフスタイルとして、海外ロングステイ(1～3カ月間の海外生活)について、ニュージーランドを主な事例として挙げながら、その実行を提唱したいと思います。それは、働き盛りの年代では、やりたくてもやれないことであり、年金生活とほぼ同じ経済条件のもとで、一回きりの人生を悔いなく過ごすためのライフスタイルともいえます。



栞田 弘明
大阪観光大学観光学部教授

5/
17
(月)

前外交官から見た国際交流の在り方と問題点

1968年に外務省入省後、地域専門家としてイランに留学、3度にわたるイラン在勤となる。1979年のイラン革命は100年に一度あるかないかの人民革命の歴史の生き証人として現地で革命の推移を体験。その後は一転して英語圏の勤務となり、米国(シアトル)、オーストラリア(キャンベラ)、ニュージーランド(ウェリントン)での勤務をへて、2000年外務省国際情報局調査室長、2002年参議院国際部国際交流課長を歴任のあと、2004年から2007年までオーストラリア在パース総領事、2007年から2009年までブラジル在ベレン総領事を歴任の後、2009年3月に外務省を退官し、同年4月に追手門学院大学アジア学科教授に採用される。

外務省に40年あまり奉職し、外交及び国際交流の現場に立ち会った人間から見ると、日本の国際交流は官が主導する交流から民が主導するものに変ってきている。官が主導したものは、経済援助であり、民間の投資による経済開発を後追的に国際交流という形でフォローしてきたが、これは交流の広がりが深化という観点から限界が見え始め、ここ10年近く新しい現象として民が主導する国際交流に官が援助を与えていくものになりつつある。欧米でいうところのパブリック・ディプロマシー(Public diplomacy)が外交にしろ、国際交流にしろ、主流になってきている。



有吉 宏之
追手門学院大学国際教養学部教授

5/
20
(木)

サッカーに見るEU・アジアの戦略

1948年 名古屋生まれ。1971年 富山卒業後、松下電器産業入社。北陸支店長や情報セキュリティ本部長、情報セキュリティ本部上席審議役などを歴任し、2008年4月から株式会社ガンバ大阪代表取締役社長に就任。5代目社長として、地域の皆さまに愛され、かつ世界に誇れるプロフェッショナルクラブづくりを目指している。

2008年アジアチャンピオンズリーグ(ACL)を制覇しFIFAクラブワールドカップでは、マンチェスターユナイテッドと熱戦を演じ、世界3位となった。世界での対戦を経験し、サッカーがヨーロッパを中心とした国際標準の中で動いており、スポーツの多くが同じような状況になっている。世界レベルに挑戦するガンバ大阪は今年もACLに出場し世界のチームと対戦します。サッカーを通じて日本と世界の関係について考えます。



金森 喜久男
株式会社ガンバ大阪 代表取締役社長

2010年度追手門学院大学 春の公開講座「日本と世界」申込について

※受講希望者は事前申込が必要です。

- ・定 員 (先着順)400名 ※定員になり次第、受付終了します
- ・受 講 料 無料
- ・講座時間 開場:13:00 講演:13:20～14:50(90分)
- ・申込方法 3月20日(土)までに、ハガキまたはメール、FAXのいずれかに住所・氏名(フリガナ)・年齢・電話 番号・交通手段を記入して申してください。

申込先

追手門学院大学リエゾンオフィス

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

E-mail koukaikouza@office.otemon.ac.jp

FAX 072-641-7443 ※お電話での申し込みは受け付けておりません。